



山都町の未来図 ～矢部高校やまと令和寮～

熊本県立矢部高校は近年、生徒数の減少傾向が続いていますが、ここ数年は毎年、同数程度の新入生を迎えています。入学者の増加を図るため矢部高校の生徒や先生方、同窓会の皆さん、地域の皆さん、そして役場が一体となり町内・県内の中学校はもとより、宮崎県、大分県、福岡県、さらに令和元年度より、都道府県の枠を超えて全国の公立高校への進学を応援する「地域みらい留学」にも登録を行い、全国の中学生等へ矢部高校の魅力を発信しています。

またフェイスブックやインスタグラムなどのSNSを活用し、学校行事や生徒たちの様子等の情報発信にも力を入れています。

さらに通学圏外からの生徒の進学を支援するために大川町青年部が中心となりNPO法人「山都町を元気にする会」を立ち上げ、空き家となっていた旧病院跡を改修し「やまと令和寮」を令和元年4月に設立し運営されています。

町外からの進学希望者にとって通学が困難なことが大きな壁となっていましたが、寮の設立により解消され、町外・県外からの入学者も増えています。

寮生4名から始まったやまと令和寮では、令和2年度に「地域みらい留学」の生徒4名を含めた8名が加わり、総勢12名が勉強や部活動を頑張りながら、お互いに励まし、助け合い、寮生活を送っています。

問合せ先 NPO法人「山都町を元気にする会」事務局（プラザ カイ 内）

☎ 0967-72-1039

「やまと令和寮」では現在、男子9名、女子3名の合計12名の生徒たちが生活しています。出身中学は、県内の中学校から5名、九州内の中学校から5名、そして大阪府と福岡県の中学校から1名ずつとなっています。学校や寮生活について取材とアンケートを行いました。

■矢部高校を選んだ理由は何か？
「林業を勉強したくて矢部高校を選びました。将来は林野庁の職員を目指しています。」

和田君（林業科学科1年）
「福島県出身で、東日本大震災を経験しているので、林業で貢献したいと思ったから。」

吉田君（林業科学科1年）
「先生に勧められて」、「寮があったから」など様々な理由がある中で、一番多かったのが矢部高校の特色の一つである林業科学科の存在です。寮生のうち8名が林業科学科に在籍しています。

林業科学科では、育林や森林保全、森林整備といった林業技術の習得のほか、ドローンや航空レーザー技術を活用した森林情報分析等の最新機器を活用した演習林管理の方法の学習など、充実した授業を受けること



食事の準備は当番を中心に皆で行います。

ができます。林業について学びたい生徒たちにとって進学を決める要因になっているようです。

■学校生活で楽しいことは？

「フード、ファッション、保育など自分の好きな事が勉強できるところが楽しい！」

平木さん（食農科学科2年）
「演習林実習や木工実習が楽しい。」
櫻井君（林業科学科2年）
「少人数なので、みんなで何かを楽しめる！」

井上さん（普通科1年）
「学校の規模が小さい分、生徒同士や先生と生徒みんな仲が良く楽しい学校です。」

岸本君（林業科学科1年）



一番人気ののり弁当

と嬉しそうに話してくれました。演習林実習など校外活動がある日のお弁当は、痛まないように全て加熱したおかずにするなど、寮生たちの学校のスケジュールも把握して献立を考えられているそうです。

アンケートの「これは伝えたい欄」には
「植田さんのご飯がすごくおいしい！」
と宮尾君（食農科学科1年）をはじめ多くの寮生が書いていました。

また、お弁当のご飯は、希望する寮生には玄米を詰めてあり、

「お弁当のご飯を玄米にしてもらってから、口内炎が治りました！植田さんのご飯やお弁当は本当に美味しくて、学校でお弁当を開く瞬間が楽しみで、中身を見てキャーって言っちゃいます！」
と嬉しそうに平木さんが話してくれました。

矢部高校のSNSには学校行事や授業、校内での生徒たちの様子等が

専門的な内容の授業や実習について楽しいとの回答が多くありました。授業以外にも、休み時間の友人とのお喋りや部活動についても楽しいと回答がありました。

■山都町で過ごしてみて
「自然豊かな所と人が優しいところがいいと思います。」

太田さん（食農科学科2年）
「自然豊かで、うのこ滝の方とかきれいです。矢部の峠が好きです。」

岡部君（林業科学科2年）
生徒の中には、社会体育やスポー



清和バドミントンクラブで地域の方とバドミントンを楽しむ太田さんと奥村兄弟（前列左3名）

掲載されています。それと一緒に、植田さんが、寮生の保護者の方にも寮での生活やどのような食事をしているのか知ってもらい、安心してもらえるようにと、お弁当やご飯、寮生の生活の様子等を掲載されています。

■多くのご支援、

ありがとうございます

「寮には、保護者の方をはじめ、地域の方からもたくさん野菜やお米等の提供があり、地域で、そして山都町産の食材で大きく育ってほしいという町の皆さんの想いに感謝しています。1日500円という予算で献立を考えていますが、野菜やお米の分を、他の食品の購入に充てられるので、より栄養とバランスの良い食事を寮生に食べさせる事ができています。寮生も山都町産の野菜やお米は美味しい！と喜んで食べています。」と感謝の想いを語られた植田さん。みんなで食べる1学期最後の夜ご飯は、エビカツかチキンカツか選べるおかずと手作りレアチーズケーキのスペシャルメニューで締めくくりでした。



ツクラブなどを通して地域の方々と交流している生徒もいます。寮生の太田さんと奥村兄弟は社会体育クラブ「清和バドミントンクラブ」に参加し、地域の方々とスポーツを楽しんでいます。

■寮生活の感想と進路を考えている中学生へひと言！

「令和寮は寮母さん達がすごく優しく、居心地がいい場所です！」

奥村君（林業科学科1年）
「寮生みんな仲が良いところが好き。自分のやりたい事を学べる学校がいいと思う。」

「寮は先輩後輩の関係が厳しいイメージだったけど、令和寮ではそういうのがなくていい！」（岡部君）
「寮監の中川さんがおもしろくて親しみやすい。」（和田君）

「今まで一緒に生活してきた人と離れて暮らすのは大変だけど、とても楽しいので安心してください。」

（井上さん）
「寮母の植田さんとお菓子作りをしたり、皆でアイスを食べたりと楽しいです。みんな明るくて優しいです。一緒に寮生活を楽しみますか？」（平木さん）

■町民皆で応援、育てる環境に



NPO法人「山都町を元気にする会」理事長の甲斐幸哉さん

寮の設立のきっかけは「矢部高校を無くしたくない！」という思いが一番でした。高校がなくなるのはマイナスではないと。寮の設立にあたっては多くの方のご協力を頂き、話が出てから入寮式まで約1年で進みました。寮に4名入ってくれた時はホッと安心しました。現在は12名の寮生がいますが、来以降の受入人数等のことを考え、女子寮の設立を検討中です。

寮生については我が子のように健康やケガ等がないように気にかけています。寮生活でしかできない経験を通して相手の事を気遣いできる人間に育って卒業してほしいです。卒業後も遊びに来たいと思える場所にしたいです。

今後については女子寮の設立もですが、ゆくゆくは山都町の立地を活かした合宿の誘致を行い、矢部高生の試合経験や人間交流の場へとつなげていけたらと考えています。

寮の設立時から町民の皆様にはたくさんご協力や、食材の提供を頂くなどご協力と応援をいただき本当にありがとうございます。これから寮生と一緒に見守って頂き、叱咤激励のお声掛け等をよろしくお願いたします。



寮生たちが自分たちで出来るよう盛付見本を作るなど工夫されている植田さん

■寮生の健康と元気の源！

寮監を務める中川盛博さん（城平）は夕方帰寮する生徒たちを迎え、朝送り出すまで毎日一緒に生活されています。

「元々料理を作ることが好きだったので、それを仕事にできて嬉しいです。普段なら、寮生たちとは接する時間が短く、食事を食べている様子を見ることもほとんどありません。ただ、今年は新型コロナウィルス感染症の影響で休校期間があったことで、寮生たちと交流することができ、繋がり強くすることができて良かったと思います。寮生の好きな食材を調理していると、その子の喜ぶ顔が浮かんできて楽しくなります。」